

## 研究ノートⅡ

### 社会的価値判断力や意思決定力を育む市民の学習

—第6学年 歴史的な内容領域における劇づくりの実践を通して—

#### Study that expands frame of physical education —Form the body action to the body work—

お茶の水女子大学附属小学校

岡 田 泰 孝

- I 本研究ノートの課題
- II 本研究ノートの結論
- III 劇づくりの教育実践を通して市民的資質の育成を図る①  
—2004年度の実践から—
  - 1 劇づくりの学習を始めた経緯  
—「聖武天皇，行基，鑑真，農民が語りあったら」—
  - 2 劇づくりを続けた経緯  
—伊藤博文，陸奥宗光，小村寿太郎，大韓帝国の人々—
- IV 劇づくりの教育実践を通して市民的資質の育成を図る②  
—2007年度の実践から「日本が世界に認められるように努力した人々」—
  - 1 4年前と同じ失敗を繰り返した6年A組の実践
  - 2 6年A組の実践を修正した6年B組の実践
- IV A・Bグループの台本全文から見えてきた成果と課題

参考文献

附記

## I 本研究ノートの課題

「市民」を創設したのは、平成14年（2002年）のことである。その背景や経緯などについては、拙稿「研究ノート 提案や意思決定の学びを市民的資質につなげる－第6学年「日本の国際協力」の実践を通して－」（『お茶の水女子大学附属小学校 研究紀要』第12集 2003年 所収）や、『提案や意思決定の学びを市民的資質につなげる－「市民」－』（児童教育研究会2004年）を、お読み頂きたい。

本稿では、以下のように課題を限定する。

「市民」で取り組んできた、6年生歴史的な内容領域の劇づくり学習の意義について考える。その際、第6学年「日本が世界に認められるように力をつくした人々」を取り上げ、子どもの学びあう様子から、私が学習のデザインをどのように描き、何を修正し、子どもの学びの何が変容したのかを考察したい。

## II 本研究ノートの結論

小学校6年生における歴史的な内容領域において、社会的価値判断力や意思決定力を育むには、討論的な活動、劇づくりなどの活動は効果的である。

ただし、劇づくりの活動においては、題材の学習過程において、社会的価値判断をおこなう場面を設けることと、劇づくりの課題に、その価値判断を生かすことができるような学習場面が生まれるような学習問題を設定することが必要である。しかしながら、劇的な活動に社会的価値判断力や意思決定力場を盛り込むこと自体がかなり高度な学習であることは間違いなく、この実践をおこなうにはそれなりの準備と教員の覚悟も必要である。

では、難しいからと言って、通史的な劇で終わらせ、社会的価値判断力や意思決定力を育むことをやめるのであれば、劇的な活動を選択する意味はなくなる。

今回の実践で、社会的価値判断力や意思決定力以外にも明確になったことがある。

第1に、劇づくりの学習では、グループのメンバー各人が学習とメンバーに対して責任を果たすそうとする態度も涵養できることに意味がある。

第2に、一人一人の理解力は、不十分であっても、友だちと関わろうとする気持がある子は、劇の台本づくりの過程で、それまでもっていた断片的で不確かな知識を、どんどん更新していくということである。

第3に、一人一人がどんなに正確で豊富な知識をもっている、友だちと関わろうとする雰囲気がない学級では、グループのメンバー各人が学習とメンバーに対して責任を果たすそうとする態度も涵養しにくいということである。

この学級間における、かかわり方の実態の差については、現段階でその原因を簡単に結論づけることはできない。この点の解明については別の機会に譲ることとする。

## III 劇づくりの教育実践を通して市民的資質の育成を図る①

### －2004年度の実践から－

#### 1 劇づくりの学習を始めた経緯－「聖武天皇、行基、鑑真、農民が語りあったら」－

##### (1) 複数の人物の関わりが見える題材を選んで

「聖武天皇、行基、鑑真、農民」では、聖武天皇が仏教を信じ、大仏を造ろうとした思いや、その時代背景を調べて考える。大仏造りに協力した行基、戒律を伝え日本の仏教を立て直した鑑真も加えて学習すると、聖武天皇だけで学習するのは違って、様々な人物が仏教を信じ、大仏造りに関わり合った姿が見えてくる。今回は、聖武天皇、行基、鑑真について基本的な事実を学んだあと、発展的な内容と

して奈良の都造りや大仏造りに参加した農民の生活を学び、表現方法の発展として、劇の台本づくりに取り組むことにした。

それまでの歴史的な学習では、人物になったつもりで考え、吹き出しに表現する方法で学んできたが、本題材では、人物と人物の関わりあいを分かりやすくするために、吹き出しを発展させて、劇づくりにしたのである。人物同士の協力や対立などの関わりあいの様子を通して、より豊かな歴史景観を子どもに感じて欲しかったからである。さらに、台本づくりの時に、子どもそれぞれが、自分のもっている人物や時代のイメージを意見交換することを通して、自分の価値観を磨き意思決定する学習場面が多く保障できるからである。

これが劇づくりの学習に取り組み始めた理由である。

(2) 単元名 聖武天皇、行基、鑑真、農民が自分の思いを語りあったら・・・

(3) 学習の展開 (○の中の数字は時数)

- ①大仏と自分たちが並んで大きさを比べる。
- ②聖武天皇が大仏を造った理由を時代背景を調べながら考え吹き出しにまとめる。
- ③④⑤大仏造りに関係した行基、仏教を立て直した鑑真の思いや願い、農民の生活を調べる。
- ⑥⑦⑧「もしも、聖武天皇、鑑真、行基、農民が社会の様子や、自分たちの願いについて語りあったら…」という想定で、生活班(4人)で劇の台本を作る。
- ⑧劇の発表会と批評会をおこなう。



●写真1 大仏の顔の大きさと比べよう

(4) 実際の子どもたちの作品は…

—第一幕—

農民(子) : お父ちゃん、おなか減ったよう

農民(父) : ごめんな〜、ごめんよ。

行基 : これこれ、なにをしておる。

農民(子) : ご飯をください。

農民(父) : これこれ、行基様に失礼じゃ。

里長 : (ドンドンー音)、税を早く出せ!

ナレ : このころの農民は、都の建設などにただ働きをさせられて、ひどく飢え、朝廷は、農民を自由に使える大変な世の中だった。

行基 : ひどい世の中だ。農民だって、普通に食べて、普通に仏教を信仰してもいいではないか。私だよければ、今から布教しよう。そして少しだが、食べなさい。税のことは、里長に言うておく。苦しいだろうが、がんばれ。

農民(親子) : 行基様ありがとうございます。

ナレ : 仏教僧の行基は、農民に慕われていた。

—第二幕—

鑑真 : すまない。わしは目が見えんのじゃよ。

農民(父) : もしかして、あなたはっ?

行基 : 鑑真様!

鑑真 : (うなづく)

農民（子）：この人、だれ？

農民（父）：唐で有名な僧の方だ。鑑真様，農民の暮らしは，苦しいのです。天皇様に鑑真様からも何とか言ってくれませぬか。

鑑真：と，言っても私は今こちらについたばかりで，この国のことはあまり知らないし。私は，楽をしたいばかりに僧になる農民が多い日本の仏教の乱れを直すため来ました。

農民（親子）：（内心ーギクッ。）

ナレ：実はこの農民たちは，辛さのあまり僧になろうとしていたのです。

鑑真：私は聖武天皇に頼まれて，やっとの思いで来たのです。

－途中省略 第三幕へ－

聖武天皇：おお！行基よ。朕の部下たちが布教を禁止して無礼をしたらしい。しかし，朕は，仏教活動に熱心に取り組む，そなたのおこないには感心しておる。

ナレ：天皇は仏教信仰者である。国の平和を願い国分寺や奈良の大仏の詔を出した方だ。

聖武天皇：おお，鑑真様，日本にお着きになられましたか。ありがとうございます。鑑真様，目をいかがしましたか。

鑑真：困難な旅の末，失明しました。

聖武天皇：そこまでして私のために（感激）。

鑑真：来たからには，仏教の乱れを直そうではないか。必要としてくれる人があれば，なにが何でも行く。それが僧としての義務だ。

聖武・行基・鑑真：仏教は国の全てだあ！

農民：仏様，私共にも手をさしのべて！

聖武天皇：うるさい。農民は朕の言うとおりに働けば良いのだ。いい加減にしろ。朕を誰だと思っているのだ。聖武天皇様だ！仏教は農民にあるべきではない。－後略－

#### (5) 劇の発表会でお互いに評価し合う

発表会では，4つの評価観点をもたせた。

- ア それぞれの人物の思いや願いが伝わる。
- イ 協力や対立，人物相互の関わりが伝わる。
- ウ 時代の様子が豊かに伝わる。
- エ 演技力（プレゼン）があるか。

この班の発表は，学級のほとんど全員が総合評価に5点を入れた力作だった。次に，観点ア～エに，「鑑真の思いがとてもよく伝わった。」「行基と農民の関わりがよくわかる。」などのコメントが出された。

#### (6) 成果と課題

聖武天皇，鑑真，行基に，発展として農民を加えた。それら4者が，協力して大仏を造り，仏教を広めたように，子どもたちも協力して劇づくりに取り組んだ。発展的な学習として，複数の人物同士を劇づくりで関連させたことによって，人物と時代の様子に対するイメージは益々広がったのである。子どもたちの創造する力は大人の予想を超えて豊かだった。関わりあいを大切に学習活動のレポートリーとしていきたい。

今回の実践の成果＝課題は，全員が，聖武天皇，鑑真，行基，農民について全てを学習してから発展的な学習形態として劇づくりを学んだことであった。グループの全員が4者の情報を共有しているが故に，話し合いが進みやすいという利点と，学習におけるリーダー的な子どもが辣腕を振るって，他者の意見を十分に聞くことなく，独りで台本づくりを進めてしまった例もあった。今後は，子どもが人



物を選んで、その人物について責任をもって調べ、台本づくりの協働作業に参画できるプランを考えることが必要になる。

なお、この劇の内容的な課題もあげたい

第一は、聖武天皇の大仏建立の契機は行基の智識寺を見たこと。天皇の大仏建立に賛成したのは行基や農民たちだけで、貴族は仏教を独占し農民に開放しようとしなかった。何より、天皇を驚かせたのは、「智識」と呼ばれる寺院を支えるボランティアたちの人材育成、資金調達のシステムだった。この学習では天皇と農民が共に大仏を造ったことを十分に伝えていないのである。

第二は、行基は749年没で、大仏完成前に亡くなっている。鑑真の来日は754年である。つまり、行基と鑑真は一緒に大仏づくりに取り組んでいないのである。この点は事実誤認である。

## 2 劇づくりを続けた経緯—伊藤博文、陸奥宗光、小村寿太郎、大韓帝国の人々—

### (1) この単元の意図—聖武天皇、行基、鑑真、農民の劇の課題から—

決定したことに対する責任を伴わないゆえ、子どもたちは、討論形式に少し飽きていた。前單元では「まあ、大久保でも西郷でもどっちでもいいや」と感じる子も出た。そこで今回は、子ども一人一人が、アクティビティーとグループ（4人班）に対して責任をもつように劇づくりをおこなった。選択した人物を細かく調べないと台本づくりに参加できず、班の共同作品が完成できないよう仕組み、責任をもつことに重点を置いた。

内容的には、日本の指導者たちが懸命に世界に認められる国づくりを進め、日本の植民地化への危機感から戦争をおこしたことに、結果として朝鮮を植民地にしたことへのジレンマや葛藤を感じる内容を加えようとした。この時代を日本側からだけでなく、異なる価値観をもつ朝鮮半島側から考える機会をつくり、20世紀初頭の世界状況を考えた。

### (2) 学習の展開（○の中の数字は時数）

- ①②ノルマントン号事件を調べ、当時の日本の指導者たちがどのような思いや願いをもったのか考えて予想する。そして、伊藤博文、陸奥宗光、小村寿太郎ら3名のエピソードから人物への興味や関心を高め、不平等条約で不利だった日本が明治時代に二度の大きな戦争を体験し、台湾や朝鮮半島を植民地にして国力の向上を図った歴史の概要を知る。
- ③「伊藤、陸奥、小村らがどのような思いでどのようなことをおこなったのか、日本の植民地になった大韓帝国の人々がどのような思いで日本の近代化を見ていたのかを考えて、4者の会話劇にしよう」という学習問題を知り、自分が調べる立場を決めて追究する。
- ④⑤⑥会話劇の台本を4人で相談して創る。
- ⑦⑧会話劇の発表会をおこない、お互いの劇に対する良い点と課題を伝え合う。

### (3) 実際の子どもの作品は…

**陸奥**：ノルマントン号事件だと？こんなに日本がなめられているのは、不平等条約のせいだ。この条約を早く改正しなくては、日本の将来が危ういぞ。伊藤殿頑張ってください。

**ナレ**：伊藤はヨーロッパを視察中です。

**伊藤**：この視察を参考にして日本に内閣制度を作り、外国に負けない国を。—伊藤帰国—

**陸奥**：天皇や政府に有利な憲法はどうでしょう。

**伊藤**：それは良い。国力を高めるためにこの方式をとろう。

**ナレ**：大日本帝国憲法発布

**伊藤**：憲法はできた。これで不平等条約をかいせいできるぞ。陸奥っ、頼むぞ。

**陸奥**：はい。お任せください。早く改正できるように努力します。まず、6条の改正から始めましょう。イギリスと改正条約をむすぼう。そうすれば、アメリカとフランスもイギリスに続いて改正条約を結ぶであろう。今、イギリスは、ロシアがアジアに勢力を伸ばしていることで困っているはずですから、日本と手を結ぶでしょう。

- 伊藤** : その件に関しては全てあなたに任せますが、総理大臣として私も参加しますよ。
- 陸奥** : 分かりました。では早速始めましょう。
- ナレ** : そして、陸奥と伊藤はイギリスとの治外法権撤廃に向かいました。
- 陸奥** : 今、ロシアはアジアに進出しております。ここで、ロシアを勝手にさせないために我が国は改正条約を結びイギリスと仲良くなるのが先です。
- イギリス** : そういうことなら良いでしょう。喜んで改正条約を結びましょう。
- ナレ** : 改正条約を結ぶことに成功した。このころ朝鮮では大変なことが起こっていました。
- 大韓帝国の人** : 農民の生活が苦しく、甲午農民戦争が今起きています。どうか、清のお力をお借りできないでしょうか。 …途中省略…
- ナレ** : そして【朝鮮半島をめぐる】日清戦争が起こり、結果は、日本が清に大勝しました。
- 大韓帝国の人々** : なぜこんなことをするんだ。日本は朝鮮を救ってくれるんじゃないのか。
- ナレ** : 日本は清と下関講和会議を結びました。—途中省略—
- ナレ** : こうして下関条約は結ばれたが、日本は三国に責められ遼東半島は返してしまう。
- イギリス** : これでは、ロシアと戦わなければだめだ。でもイギリスだけじゃだめだ。日本よ手を組んで欲しい。頼むぞ。
- 伊藤** : いいでしょう。これで一度大韓帝国の植民地化は中止だ。
- ナレ** : イギリスの巻き添えを食らった日本は日英同盟を理由に日露戦争に参加しました。そこで、アメリカの大統領が仲裁に入りました。
- ルーズベルト** : 戦争は良くありません。日本もロシアも一度講和会議を開いてください。
- ナレ** : ポーツマス講和会議では、全権は小村寿太郎。ロシアのウイッテの話し合いです。
- 小村** : 日本はロシアに勝ったのです。
- ウイッテ** : いいえ、そんなことはありません。決着はついていません。
- 小村** : このまま戦争を続けていたら、日本はロシアに勝てたはず。
- ナレ** : 日本はねばり強く交渉しましたが、日本の思い通りにはなりませんでした。
- ウイッテ** : 賠償金は払えぬ。なんなら、戦争を続けましょうか？
- 小村** : 分かりました。南樺太だけでいいです。
- ナレ** : こうしてロシアに上手く乗せられた日本は国民の反感をかうポーツマス条約を結んでしまいました。そして一度、中止になった朝鮮植民地化の計画を再開させました。朝鮮の人々は全力で抵抗しましたが、日本の軍隊に力で押さえられ、どうしようもありませんでした。しかし納得のいかない大韓帝国の人が反対運動を続けていました。
- 大韓帝国の人々 (安重根)** : こんなことをしたのはだれだ。そいつさえいなくなれば、大韓帝国は平和になる。絶対に殺してやる。
- ナレ** : 伊藤暗殺計画を密かに考えていた安重根は遂に計画を実行しました。
- 安重根** : 死ね (バキューン)
- 伊藤** : これで終わりか。小村っ、あとは頼むぞ…。
- ナレ** : 伊藤は死にました。伊藤の意志を継いだ小村は第4条改正のために努力しました。
- 小村** : 何もかも日本は整っています。そろそろ、条約を完全に改正してくれないか。
- イギリス** : いいでしょう。そこまで努力したのなら良いでしょう。
- 小村** : これで国民からの反感も少しは減るでしょう。
- ナレ** : 全ての不平等条約は1911年に改正し、日本は国際的に認められ力をつけたのです。

#### (4) この題材の成果と課題

##### ア 課題

今回も課題が多い実践となってしまった。一人一人または、グループの皆が時代の景観をきちんと出力できたかという点が今回の学習活動の評価観点になる。なぜならば、劇という学習方法・プレゼンテーションは、対立や葛藤場面があったときに有効に機能すると考えられるからである。しかしながら今回

は、価値観の対立や葛藤よりも、結果的には時代の流れを理解し、その結果を表現するためのプレゼンテーションになってしまった感は否めない。しかも、時代の流れの理解についてさえ、子どもも指導者も、初見ではすぐにコメントできないという問題点があった。このように事後に、じっくりと記録を読んで、初めて事実誤認に気がつくこともある。特に学習中の評価については、指導者の力量の形成と共に、今後の課題にしたい。

#### イ 成果

今回のユニットでは、自分の役割に責任をもってグループ学習に臨むという点については、かなり達成できた。資料を集め、読みこなし、自分が選んだ人物について、歴史的な事件の度に、どんなことを誰に言えばよいのかということを考えてから、協働作業に関わっていったからである。

## IV 劇づくりの教育実践を通して市民的資質の育成を図る②

### —2007年度の実践から「日本が世界に認められるように努力した人々」—

#### 1 4年前と同じ失敗を繰り返した6年A組の実践

##### (1) 6年生後半(小・中接続期 前期)にこの単元を学ぶ意味

6年生の歴史的内容の学習では、今まで、時代背景を調べた上で人物の気持ちになって吹き出しに書く方法(聖徳太子、藤原道長、平清盛など)や、複数の人物を人物関係図に表し人物の協力や葛藤を表現する方法(聖武天皇、鑑真、行基、農民)などに取り組んできた。その時代に身を置いて考えることが、歴史的な学習における価値判断力と意思決定力と考えているからである。

小・中接続期前期では、「異なる価値観や考え方を尊重しあおうとしながら、集団や諸行事において、自分の役割を發揮し、学年や学校の一員として責任ある行動をとる。」ことをねらいにしている。

そこで、今回は、「役割を發揮し、一員として責任ある行動をとる」とことと関連して、子ども一人一人が、自分と一緒に学習する仲間に対して責任をもてるように、劇づくりを行う。自分が選択した人物について責任をもって調べて劇づくりに参加して、完成させるような場面を設定したのである。

また、「異なる価値観や考え方を尊重しあおう」とすることと関連させて、学ぶ対象に異質性の高い対象を組み込んだ。日本の指導者たちが世界に認められる国にしようとした背景には、列強による日本の植民地化への危機があったが、その過程で、日本は朝鮮を植民地にした。これらの歴史的な事象への葛藤を感じられる劇になることを願っている。だからこそ、異なる価値観をもつ朝鮮半島側から見て考える機会をつくり、歴史的景観を、多面的に考える学習場面を設定することにしたのである。

この題材では、近代における外国との戦争が、初めて学習対象になる。小学校では、当時の時代状況と、人物の思いや願いを関連させながら、それぞれの子どもが価値判断できるようにし、日清・日露戦争の国際関係の詳細を学ぶことは中学校に譲ることにする。

##### (2) 期待する協働して学ぶ子どもの姿

この題材では、子どもたちは、伊藤博文、陸奥宗光、小村寿太郎らが進めた、大日本国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正などについて調べ、日本が国際社会に認められるようになるためにそれぞれの人物が果たした役割の意味や、植民地にされた朝鮮半島の人々がどのような思いで日本の近代化を見ていたのか、日本とは異なる価値観について考える。その際、4者で劇を創作するとことを通して、より広い視野から自分なりの時代像を考えるようにする。

##### (3) 目標

- (1) 自分が選んだ立場(伊藤博文、陸奥宗光、小村寿太郎、大韓帝国の人々)について、責任をもって、業績、生き方、働きを調べて、劇づくりに必要な情報を提供することができる。
- (2) 4者の立場と関係性を考えながら劇を創作する。特に、伊藤博文、陸奥宗光、小村寿太郎ら3者の意思決定をするときの状況や気持ちを想像して3人の連携・協力と、それに対抗する植民地

になった朝鮮の人々の立場を考え表現しようとする。

(4) 子どもたちの学びの履歴（○内の数字は時間を表す。11時間扱い、本時は、第⑩時／13時間）

10月9日（火）：①時

ノルマントン号事件を調べ、ドレイク船長が軽い罪ですんだわけを話し合い、修好通商条約第6条が原因であることを突き止めた。

そこで、「もしも、自分がアメリカの大統領やイギリスの首相であったらなら、日本がどんな国になれば、不平等条約を改正してあげるか」考えてみた。子どもたちは、「アメリカの手下になったら」、「自分の国を一番に思ってくれたら」、「強くなったら」、「豊かになったら」、「民主主義の国になったら」、「文化が発展したら」という意見を出し合ったので、自分が納得できる考えをいくつか選ばせて、予想する視点をもたせることにした。

10月12日（金）：②時

条約改正の歴史の年表を読んで、伊藤博文、陸奥宗光、小村寿太郎の働きの概要を知り、前時の予想にそってノートにまとめた。

AグループのZ児のノートには次のように書いてある。

伊藤博文……日本に民主主義を。憲法で日本の法律を作る。日本を欧米化させる。内閣制度を作った。

陸奥宗光……日本でも裁判ができるように。日本が欧米と対等に張り合えるようにした。清と講和条約を結んだ。

小村寿太郎…日本で関税が決められるようにした。ロシアとポーツマス条約を結ぶ。イギリスと同盟を結ぶ。

さらに、子どもたちは、この年表から日本は条約改正を進めながら、領土を拡大していることに気づいていった。

10月15日（月）：③時

そこで、「3人の働きの、日本は外国に支配されずにすんだが、日本は外国を支配する立場になった。このことをどう考えるか」というテーマで話し合った。

Aグループの朝鮮人役の子はノートには次のように書いた。「私は良くないと思います。外国を支配するまでは、日本は支配される側だったのだから、支配される側の気持ちを分かっています。それなのに外国を支配するのはひどいと思います。」と。

学級全体の傾向としては、31名のうち17名が、「日本が強くなったから良い」または「仕方ない」と答えていた。授業者としては、学級の過半数が日本の植民地支配を肯定することには、驚きを隠せない。

過去の実践経験では、上のZ児のような「日本はひどい」という反応の方が多く、むしろ、「帝国主義の時代では、大国は植民地をもって当たり前な時代であった」という世界地図資料を配っていたほどであった。しかし、今回はそれは不要になった。なお、以下には、グループごとの反応を掲載したので、参照して頂きたい。色がついているのは、否定的な意見である。

班	配 役	日本が植民地をもつことについて
A	伊藤、小村	仕方ないことである。戦いに勝って領地をもらったのだから平等だし、それでも日本が平和になるなら良い。
	陸奥	仕方ない。なぜなら、大国は皆植民地をもっているし、日本は戦争に勝って土地をもらっているから強い証拠だ。
	朝鮮人	良くないと思います。外国を支配するまでは、日本は支配される側だったのだから、支配される側の気持ちを分かっています。それなのに、外国を支配するのはひどいと思います。
B	伊藤	日本は最悪な国だと思った。自分がイヤなことを他国にするなんて卑怯だと思った。
	朝鮮人	いじめを受けていたのに、急に力をもって同じことを他の国にしているから、最悪だと思う。



班	配 役	日本が植民地をもつことについて
B	陸奥	ひどい国だと思った。自分たちが支配されずにすんだのに、他国にそれを押しつけて、本当に日本はひどいやつだと思った。
	小村	強くなれたので良いと思う。
C	陸奥	仕方がないと思う。戦争をしてしまったら、必ずどちらかが負けるから。また、こうしないと自分たちの国がいじめられるから。
	朝鮮人	立場が逆転して偉そうになった。
	伊藤	今まで強い国の言いなりだったから、弱い国を支配しても良いと思う。
	小村	良いと思う。今まで弱い国だったけど強い国だと言うことが外国に分かったと思う。
D	陸奥	今の時代ならとても残忍だが、昔ならば、日本がされかけてきたことを、やっただけだと思う。昔はそういう世の中だからしょうがない。
	朝鮮人	なりゆきだから仕方のないよ。うん。
	伊藤	日本はこれで外国に認められて、良い社会になったので、良いと思う。
	小村	日本はいじめられてきたころもあったので、別に支配しても良い。
E	小村	欠席
	伊藤	今までは自分たちより劣っていたのに急に権力を持ち始めてきて、外国を支配するようにまでなったので、大国などは逆に日本が気に入らなくなってきたと思う。
	陸奥	あまり良いとは思わない。支配されそうなきはいやなはずなのに、支配すればいい気になるなんて良くないから。
	朝鮮人	良いと思う。昔、中国や朝鮮に馬鹿にされていたから、仕返ししても良い。
F	伊藤	大国になることは良いが、やりすぎると復讐される。
	朝鮮人	外国に支配されずに、また支配せずに、そのままが良い。
	小村	日本が土地を多くした方が良いと思う。昔は土地が多い方が偉いと考えられていたから。
	陸奥	日本が外国に支配されるよりは支配する方が良いと思う。でも、強引にやるのは良くない。
G	陸奥、 朝鮮人	その支配する国にも、自分たちで守ってきた伝統文化があるから、支配するにしても話し合いで、相手の意見を大いに尊重するべきである。もしも支配するなら、見守るつまり手伝う型の方が良いと思った。自分たちがこの立場になった時のことを考えて欲しい。
	伊藤	前にいじめられていたから、いじめ返して良いと思う。
	小村	日本が外国に「支配するな」と言ったのに、日本が他の国を支配するのは矛盾している。
	朝鮮人	自分たちがされてイヤだったのに、また同じことを繰り返すのはおかしいと思う。争いがおきて無駄なだけだと思う。
H	伊藤	日本は強くなり、いじめられなくなったので良かった。
	小村	日本は外国を支配できるような立場になって良かったと思う。
	朝鮮人	日本が外国を支配できるくらい強くなったのは良いが、ひどいことをするなら良くない。
	陸奥	日本は自分がイヤなことをほかにやる最低だ。

10月16日(火)、19日(金):④⑤時

「日本が世界に認められるようになるために、伊藤博文、陸奥宗光、小村寿太郎らは、どのような「思い」や「願い」で、どのような、働きをしたのだろう。

また、日本の植民地になってしまった朝鮮の人々は、どのような「思い」で、日本が世界に認められる様子を見ていたのだろうか」という学習のテーマを知り、グループで自分の役割を決めた。この時も話題になったのは、朝鮮の人々の役になりたくないというもめ事であった。

その後、自分の選んだ人物について、調べて、どんな場面でどんなことを誰に言うのか考えた。

10月22日(月)、23日(火)、26日(金):⑥⑦⑧時

劇の台本を4人で相談して創った。

(5) 子どもたちがつくった台本の例と他の子どもたちからの反応 A組Aグループ

ア A組Aグループのプロフィール

男児2人、女児1人の3人グループで、歴史の学習に対して意欲的な3名である。特に、男児の一人(伊藤・小村役)は、歴史が好きでこの劇づくり対しても思いが強い。

イ 10月22日(月)の台本

1 ナレーター : 1889年の大日本帝国です。伊藤博文が憲法の草案をつくろうとしています。

2 伊藤博文 : 今は強い主権者が必要だ。民主主義など早すぎる。憲法を作って近代化すれば、条約改正ができるぞ。

3 ナレーター : それから5年の歳月がたち、陸奥宗光が条約改正をしようとしている。

4 陸奥宗光 : ノルマントン号事件のような事は、二度と起こってはいけない。

今度こそ、条約改正をするべきだ。

5 ナレーター : この願いが通じ、治外法権の撤廃が成功しました。

あれから、15年の月日がたち、韓国を実質的に植民地にすることに成功しましたが・・・。

教員からのアドバイス ⇒ 「5 ナレーター」の「この願いが15年後に、どのようにつながったのか分かりやすくした方が良い」とアドバイスしたが、大きな変化はなかった。

ウ 10月23日(火)の台本

一人(伊藤・小村役)欠席のため、あとの二人が敢えて台本づくりを進めなかった。

6 朝鮮の人々 : この朝鮮を併合するなんて日本は何てひどい国なのだ。日本の勉強をさせられたり、名前を変えさせられたり、自由がなくなってしまった。こんな生活はいやだ。伊藤博文を殺してやる。

エ 10月26日(金)の台本

7 ナレーター : 2年ほど時がたち、小村寿太郎が関税自主権を回復しようとしている。

8 小村寿太郎 : 私たちはあなたたちと同じように朝鮮という植民地も獲得し、台湾と南樺太まで手に入れている。そして、私たちは清にもロシアにも戦争に勝っている。日本が強くなった証拠だ。関税自主権を回復している。

9 ナレーター : この努力のお陰で、関税自主権を回復することができた。

教員からのアドバイス ⇒ 「とてもシンプルになりましたね」と伝えている。この3人の子どもたちなら、もっと4者の関係が表れるような台本になると期待していたからこのような声かけになってしまった。10月23日に一人欠席して学習が停滞したことも要因の一つである。

この後、さらに、教員からのアドバイス ⇒ 「最後にナレーターが、この劇全体で伝えたいことについてまとめてください(朝鮮人の怒り、条約改正の願い)」とノートにメモした。

このアドバイスに対する3人子どもの話し合いの結果は、以下のようになっている。

(自分たちのこの時代のイメージ) この3人(伊藤博文、陸奥宗光、小村寿太郎)は、日本を現代に近づけるための土台をつくった人だと思えます。また、3人は未来や国の状況をしっかり考え、日本のために尽くした人だと思えます。

## (6) 6年A組の実践への反応

この6年A組の実践は、2007年10月31日の公開研究会でおこなったものである。協議会では、参会者の方々から、主に以下のような意見が出された。

- ① 伊藤博文、陸奥宗光、小村寿太郎の3人は朝鮮を植民地にすることをどのように考えていたのか。またそのために、どんなことをしたのか。これらの点について指導しているのか？
- ② 3人の大臣の考えや行動に違いがあるとすれば、朝鮮の人々はそれらをどのように感じていたのか。そこを子どもたちに考えさせる指導が必要ではないのか？
- ③ 学習活動にはそれぞれ考えさせることと関連して意味があるはず。劇にする以上はその意味づけが明確にならないといけなくはないはずである。今日の子どもの劇は、通史的に事実をなぞっていることばかりで、もっと伊藤博文、陸奥宗光、小村寿太郎の考え方の違い、価値観の違いが表れる内容を子どもたちがつくりたいと、劇にする意味がなくなる。

これらの意見を受けて、学習指導の計画を修正することにしたのである。

6年A組に対しては、この劇の発表会后に、新たな学習問題を提示して、再度台本づくりに取り組んでいる。内容や価値の対立軸を焦点化できるような場面を与えることにしたのである。

後続の6年B組では、学習のはじめから、先行していた6年A組を修正した学習問題で進めることにした。

## (7) 子どもたちの学びとその後の履歴（○内の数字は時間を表す）

ア 10月29日（月）：⑨時

劇の発表会の準備をおこなう。

イ 10月30日（火）：⑩時

劇を見合い、お互いの劇に対する良い点と課題を伝え合う。

発表は、A、B、C、D班であった。

Aグループがもらった意見は以下の通りである。

- 『自分たちのこの時代のイメージ』が分かりやすい。』
- 「伊藤、陸奥、小村の3人は、日本をつくための土台になったことに賛成する」と、いう感想が多数寄せられた。

これらに反対する意見は皆無であった。それは10月15日（月）：③時の「日本が植民地をもつことについて」の個人の意見からもほぼ予想できたことであった。

Aグループが最初の発表グループだったことは大きな理由の一つだと思うが、見ていた他の子どもたちは、比較対象がないので、あまり批判的なことは書きにくいと感じたのだろうと考察する。

なお、Aグループに与えた影響が大きかったBグループの劇の内容を紹介する。

**Bグループ**…伊藤家の食卓のパロディー風に始まりで、内容的には不十分でその後メンバーが放課後まで残って台本を書き直したというエピソードが残っている。しかし、劇の導入の方法は面白いという評価が寄せられた。また、朝鮮の人々の苦労や苦しみについての劇の内容については詳しいという評価を得ていた。

ウ 10月31日（水）：⑪時

劇を見合い、お互いの劇に対する良い点と課題を伝え合う。発表は、E、F、G、H班であった。

なお、Aグループに与えた影響が大きかったE、G、H班の劇の概要を下に記す。

**Eグループ**…ナレーターが「ここはあの世です。あそこで誰かが話しています。」と始め、伊藤博文が、「悔しい、悔しい。何で俺が朝鮮人に殺されなきゃいけないんだ」と切り出して、小村寿太郎や陸奥宗光との会話で劇が展開していく。

**Gグループ**…日本人が朝鮮人に向かって土下差を強要する場面があり、服従しないものを射殺するという内容。後日、それは日中戦争中のことと勘違いしていたということが分かる。

Hグループ …1919年の3・1独立運動の紹介があり、ナレーターが「朝鮮の人々はなぜ、このようなデモ行進をおこなったのでしょうか。その理由を探っていきましょう」という場面から劇が始まる。

エ 11月2日(金): ⑫時

友達からもらった意見をノートにまとめた。また、教員側では、「①伊藤博文、陸奥宗光、小村寿太郎の3人は朝鮮を植民地にすることをどのように考えていたのか。またそのために、どんなことをしたのか。これらの点について指導しているのか?」という指摘に応えるために、自作資料を用意して配布した。この資料は、内容的には小学生にはかなり高度なものであると感じた。

16 stage 日本を世界に認められる国にするために力を尽くした人々  
伊藤博文、陸奥宗光、小村寿太郎の3人は、朝鮮をどう見ていたのか?

6-4 番 名前

インターネットでは、こんな意見が出ています。

1 伊藤博文は韓国併合に反対していた?

伊藤博文は、韓国併合反対派でした。

ただし、伊藤博文は、朝鮮の人々のことを思って、反対したのではありません。「朝鮮併合後、日本が植民地支配をするのに、日本の国力を超えたばくだいな費用がかかる」ことが理由でした。

実際、伊藤博文らの朝鮮併合反対派の主張は正しかったのです。1945年に日本は朝鮮を手放しましたが、その35年間に、日本が朝鮮につきこんだ費用は、現在の価値になおして80兆円以上と言われています(「今」の日本の一年間予算くらい)。これで、鉄道や道路、排地の開拓などをおこないました。というように、植民地をもつことがどんなに大変なことか、きちんとした判断ができた政治家だったのかも知れません。

伊藤博文の暗殺された後、朝鮮併合賛成派の寺内正毅(まさたけ)が第三代朝鮮総監に任命され、この時点で朝鮮併合が事実上決定したのでした。<http://members.at.infoseek.co.jp/konrot/rekisi06.htm>の文を読みやすく直しました。

2 陸奥宗光の朝鮮を見る目(プリントNO2 サバル通文の誓い とあわせて読んでください)

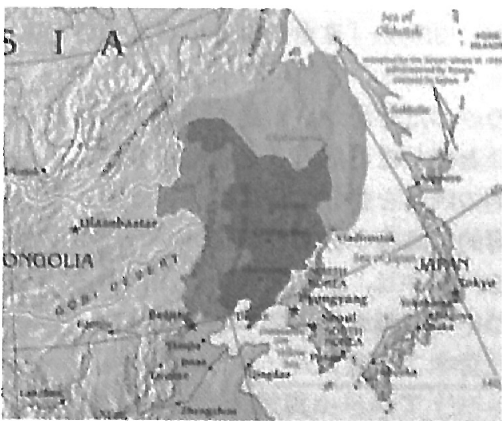
陸奥宗光は、日清戦争を起こさせるために強引な手段をつかいました。

農民の反乱(甲午農民戦争)で、日本は、朝鮮に軍隊を送りました。1894年6月、反乱がおさまると、朝鮮政府は日本と清の両国に軍隊を引き上げるようお願いしましたが、日本も清も、どちらも受け入れませんでした。それどころか、日本は、7月23日に王宮(王様が住む城)を占拠して、日本よりの政府をつくってしまいました。そのやり方がかなり強引でした。日本軍が朝鮮王の城に入って、国王をとりこにしてみました。清がこれに対して抗議し、対立が激化して、日清戦争につながった原因でもあります。

このような事実から、陸奥宗光という人は、「日本という国を守るためであれば、朝鮮の人たちの権利を無視してもかまわない」と思っていたという見方もできるのです。

<http://homepage2.nifty.com/kumando/mj/mj010922.html>の文を読みやすく直しました。

3 小村寿太郎の朝鮮の見方



小村寿太郎は、満州(中国東北部)と朝鮮は、一体だと考えていました。だから、満州がロシアに取られれば、次に朝鮮がロシアに取られるだろう。そうなれば、日本の安全も危うくなると考えたのです。

ポーツマス条約では、ロシアは満州の鉄道の一部を日本へゆずることになりました。その後アメリカの鉄道王ハリマンが満州の鉄道の共同経営を提案しましたが、小村は断りました。そのことは、満州を日本の物にしたという小村寿太郎の強い信念のあらわれでした。しかし、このことが、後になって、アメリカやイギリスとの対立になったと考える人もいます。<http://www.okazaki-inst.jp/?p=399>の文を直しました。(左の地図の赤い部分が満州の範囲です。朝鮮と接していることが分かるでしょう。)

オ 書き直した台本 11月5日(月)~11月6日(火): ⑬⑭時

劇の台本の修正をおこない、再度、劇を見せあう。

全てのグループの劇を発表しあい、また見あって、台本の修正作業を行うことにした。ここで指導したことは以下の通りである。

- ① 事実と誤りはないか確認確認すること。
- ② 3人の考え方に違いはないのか確認すること。

- ③ ナレーターの言葉で、「各班では、この時代をどんな時代と考えたのか、どんな修正をしたのか、この2点を明言する」こと。

書き直した台本の全文

考 察

- 10 ナレーター：前は、3人の思いを重点的に書きましたが、今回は、時代の流れや、3人の思いを組み合わせた形で、天国で話しあう形式にして発表します。  
(朝鮮人の気持ち、役柄を変えた)と説明する。
- \*劇の始まり  
今、伊藤、陸奥、小村の3人が天国で自分がおこなったことを話しあっています。
- 11 伊藤博文：私は、日本が他の国に劣らず立派な国になるには、憲法が必要だと考えた。だから、私は、大日本帝国憲法の草案を作った。この憲法は、天皇中心で、中央集権国家を理想とした憲法だ。このおかげで、日本は近代に近づいたと思う。
- 12 陸奥宗光：なるほど確かに伊藤さんが憲法をつくったおかげで、私も小村さんも江戸時代に結んだ不平等条約も改正することができた。  
私はノルマントン号事件をきっかけに、こんなことは二度と起きてはいけなかったんだ。こんな悲惨な事件を二度と起こさないためには、領事裁判権を改正しなければならないと考えた。だから私は、全力で条約改正に務めた。そのおかげで、やっと領事裁判権の撤廃に成功したんだ。これで、伊藤さんに続き近代にまた、一歩近づけたんだ。
- 13 小村寿太郎：私だってがんばったんです。貿易をするとき何でもかんでも外国の好き勝手にさせているのを見て、余りに理不尽だと思いました。日本に関税自主権がないことがわかりました。これを回復すれば、日本は勢いづく、そう考え精根尽きるまで条約改正に励みました。  
おかげで、不平等条約完全撤廃となる、関税自主権の回復に成功しました。これで、日本がさらなる飛躍をするための土台ができたと思います。
- 14 陸奥宗光：私が条約改正をしたすぐ後に、日清戦争が始まり、日本が優位に立ち、その時の講和会議の全権は私だ。  
この会議の結果、日本はリャオトン半島、台湾を手に入れた。朝鮮を支配するのは、少しかわいそうだと思うが、日本は戦争に勝ったのだからしょうがないと思う。
- 15 朝鮮の人々：何？私たちは韓国を併合されたとき、こんなに苦しみを味わったことはないと思った。独立したい！  
朝鮮は譲らないという思いで、韓国統監の伊藤博文を殺したんだ。
- 16 伊藤博文：なるほど、朝鮮人が苦しむ理由は良く分かる。だが、私は、韓国併合に反対派だったんだ。  
私はなぜ殺されたんだ。韓国を欲しかっただけではない。
- 17 ナレーター：では、一体犯人はだれなのでしょう。

- Bグループ…伊藤家の食卓のパロディー風に始まり方、Eグループ…ナレーターが「ここはあの世です。あそこで誰かが話しています。」という場面の設定の仕方をヒントにしていると考えられる。
- 「2 伊藤博文」：今は強い主権者が必要だ。民主主義など早すぎる。憲法を作って近代化すれば、条約改正ができるぞ。」の踏襲と考えられる。
- 伊藤博文と陸奥宗光が、互いの良い部分を認めようとするなど、会話として相互のやりとりを感じられる内容になっている。一回目の台本に比べて、人間関係が分かりやすい表現になっているのが進歩した点といえよう。
- 小村寿太郎と陸奥宗光は、どちらがより功績が大きかったのかを言い争うようなストーリーにすることによって、それぞれの業績の意味が分かりやすくなっている。
- 14～21にかけての台詞によって、日本で朝鮮に対して最も強攻的な思想や行動の持ち主はだれだったのかについて議論している。これは、一回目にはなかった新しい展開であることは評価できる。ただし、日本の朝鮮半島支配について、だれが悪かったのかということを追求する内容になっていて、暗殺された伊藤博文以上に、小村寿太郎の方が悪いという主張になっている。歴史的な事実からいえばこ

- 18 朝鮮の人々 : 朝鮮の自由を奪ったのはだれだ。
- 19 伊藤博文 : 私は、憲法をつくり韓国統監だっただけだ。
- 20 陸奥宗光 : 私は、条約を改正し、下関条約を結んだだけだ。  
実質的に韓国を追い付めたのは小村寿太郎さんではないか。
- 21 小村寿太郎 : うっ…、そっ…そうかも…しれない…。
- 22 ナレーター : 冷静を取り戻す (小村寿太郎のこと)。
- 21 小村寿太郎 : そうそう、私はロシアの攻撃を防ぐために、  
朝鮮を植民地にしておいた方が得策だと考えた。朝鮮を日本領  
にした方が守りやすい。
- 22 伊藤博文 : お前が死ねば良かったのに。  
朝鮮人は、殺す相手を間違えたな！
- 23 朝鮮の人々 : すまない。でも、朝鮮を守りたかっただけだ。
- 24 伊藤博文 : その気持ちは分かる。小村は、もう少し世界の  
情勢を考えるべきだった。
- 25 小村寿太郎 : 私は日本のことばかりしか考えていなかった。  
すまない…。
- 26 ナレーター : 3人は、日本の未来のために力を尽くしまし  
た。しかし、日本の国ばかり考え、周りをひどい目に遭わせた  
人もいました。

(おわり)

これは間違っていることである。  
しかし11月2日(金):⑫時配布  
の「伊藤博文、陸奥宗光、小村  
寿太郎の3人は朝鮮を植民地に  
することをどのように考えてい  
たのか。」というプリント資料か  
らは、Aグループのような解釈  
が起きて仕方がないと、教員  
側が反省する点である。

- Aグループの台本の特徴は、朝  
鮮の人々の苦しい生活がほとん  
ど描かれていないことである。
- 26のナレーションは、第一回目  
の台本と比べると、「しかし、日  
本の国ばかり考え、周りをひど  
い目に遭わせた人もいました。」  
と、歴史の陰の部分にも言及す  
るようになっている。  
このような変化があらわれたの  
は、他のグループの劇を見て影  
響を受けたと考えられる。

カ 11月9日(金):⑮時

HGFEDCBAの順番で再度発表会をおこない、相互評価しあった。相互評価しあう観点とは、以下の通りである。

- 前回の発表とくらべて、改善されたした良い点を書こう。  
(発表する前に、必ず、どこを改善したのか、説明しましょう。)
- 発表したグループが、その時代をどんな時代と考えているのか、それに対する意見を書こう。  
(日本は外国から支配されそうな立場から、反対に外国を支配する立場になったことについて)

キ 11月12日(月):⑯時

相互評価カードを読み、学習のまとめをおこなう。Aグループがもらった意見は以下の通りで、分類したものである。

- 天国という設定が良かった
- 時代の流れ、他の国との関係、一人一人の思いが良く分かった。
- 伊藤博文の「お前が死ねば良かったのに」という台詞が良かった。
- 時代について考えていたかが良く分かる。
- 台詞が充実していた。
- 朝鮮人が苦しくなったことが良く分かった。
- 朝鮮人の気持ちやみんなの気持ちがあって良かった。
- (大日本帝国)憲法のことについて説明できていて良かった。
- 小村寿太郎さんが朝鮮人に対しての気持ちを取り入れていて良い。

ク 11月13日(火): ⑩時

昨日12日⑩時に、もらった総合評価カードをもとに、3人が話しあってまとめた、自分たちの活動の振り返りである。

- (1) 修正した所をきちんと説明していたので、結構理解してくれた。  
もう少し劇の中で自分たちの考えを分かりやすく説明すれば良かった。
- (2) 事実をきちんと確かめ分かりやすく、面白い劇になるように意見を出しあった。  
3人(の大臣)と朝鮮の人の気持ちがよく分かるように工夫した。
- (3) 自分でその役になりきって、その気持ちを想像して台詞を言った。  
1回目と2回目の役柄を変えることによって、いろんな人の気持ちを理解できた。
- (4) 3人は条約改正を機会に日本を近代化するために役割分担して、協力できたのだと思う。  
ただ韓国併合については、意見が対立していた。そして、伊藤博文が殺されたことで、反対派の代表がいなくなり韓国併合につながった。

(8) 6年A組の実践の考察—劇づくりの学習の効果—

小学校6年生における歴史的な内容領域において、社会的価値判断力や意思決定力を育むには、劇づくりなどの活動は効果的である。

ただし、劇づくりの活動においては、題材の学習過程において、社会的価値判断をおこなう場面を設けることと、劇づくりの課題に、その価値判断を生かすことができるような学習場面が生まれるような学習問題を設定することが必要である。

今回の実践で、社会的価値判断力や意思決定力以外にも明確になったことで、劇づくりの学習では、グループのメンバー各人が学習とメンバーに対して責任を果たすそうとする態度も涵養できることに意味があることである。Bグループのように、発表会では、内容的には不十分で、その後メンバーが放課後まで残って台本を書き直したというグループもある。

2 6年A組の実践を修正した6年B組の実践

(1) 修正した点

A組の実践を受けて、B組では、以下のような点を変更した。

- ① 伊藤博文、陸奥宗光、小村寿太郎の3人は朝鮮を植民地にすることをどのように考えていたのか。またそのために、どんなことをしたのか。これらの点について指導する。
- ② 劇にする以上はその意味づけが明確しなければならない。そこで、もっと伊藤博文、陸奥宗光、小村寿太郎の考え方の違い、価値観の違いが表れる内容を子どもたちがつくるように学習問題を変更する。

A組の学習問題	B組の学習問題
<p>日本が世界に認められるようになるために、伊藤博文、陸奥宗光、小村寿太郎らは、どのような「思い」や「願い」で、どのような、働きをしたのだろう。</p> <p>また、日本の植民地になってしまった朝鮮の人々は、どのような「思い」で、日本が世界に認められる様子を見ていたのだろうか。</p> <p>グループで、4者の会話の劇をつくって、お互いに聞きあおう。</p>	<p>(1) 伊藤博文、陸奥宗光、小村寿太郎の3人は朝鮮を植民地にすることをどのように考えていたのか。</p> <p>(2) またそのために、どんなことをしたのか。</p> <p>(3) 朝鮮の人々は、3人の考えや行動をどのように感じていたのか。</p> <p>これらのことを、4者の会話劇にしよう。</p>

(2) 観察対象学級B組の特徴（A組と比較して）

本学級の子どもたちは、一人一人がノートに書いている人物の思いや願いや時代のイメージなどが豊かであることや、前題材の「大久保利通と西郷隆盛、どちらの生き方や政策を支持するか」では、学級全体が大久保派・西郷派にほぼ半分ずつにわかれて討論できたことなど、価値観に偏りが無いなどの特徴がある。

B組の特徴は、31名中22名が、日本が植民地をもつことについて、否定的、または肯定できないという態度を表明していることである（A組は31名中14名）。ある意味で子どもらしく、他者を支配するということについての罪悪感や嫌悪感をもっている子どもが多くいると言えよう。詳細は、以下の一覧表をご覧ください。ゴシック体の字は、否定的な考えである。

	役 割	朝鮮の植民地化について 10月26日
A	伊藤博文	それで良かったと思う。他の国を支配できれば、アメリカにも認めてもらえるから。
	小村寿太郎	朝鮮は王政復古の時に日本にとっても失礼なことをしたから、植民地支配されても当然である。
	陸奥宗光	支配される側から支配する側になって良かった。日本の土地がどんどん増えるから。
	朝鮮人	我が日本ながら最低だと思う。日本は、支配される苦しみを知っているのにひどい。
B	伊藤博文	嬉しくない。なぜなら、無理矢理日本語や日本史を押しつけたからだ。
	朝鮮人	できれば、支配するのでもされるのでも止めて欲しい。
	陸奥宗光	日本人は、植民地の人のことを考えて欲しい。可哀想だと思いませんか？
	小村寿太郎	自分の利益だけを考えた日本はどうかと思う。
C	朝鮮人	ただ一方的に支配するのではなく、植民地の人々の意見を聞くことも大切だ。
	小村寿太郎	中国や朝鮮の人々が怒って反乱を起こすと思うからいくつか土地を返した方が良い。
	陸奥宗光	今までやられてきたことをやり返すことがことは平和につながらない。
	伊藤博文	日本が強くなり領土が増えることは嬉しいが、朝鮮の人々の気持ちを考えると素直に喜べません。
D	陸奥宗光	国を守るために仕方がないことであった。
	朝鮮人	日本は今まで他の国に差別されてきたから、少くらしい他の国を支配したって良い。
	小村寿太郎	そのことを良く思わない国もあると思う。一部ならまだしも全部はよした方が良い。
	伊藤博文	メリットとデメリットがある。領土を広げるにしても程々にした方が良い。
E	伊藤博文	歴史や言葉まで潰す必要はない。
	伊藤・陸奥	欧米は、弱かった日本が偉そうにしていることをねたむ可能性がある。
	未定	欠席
	朝鮮人	いけない。
F	小村寿太郎	欠席
	朝鮮人	日本は天狗になってしまった。不平等条約のピンチを乗り切ったが、逆の立場を築き上げたから。
	陸奥宗光	今まで外国にいじめられていたから、強くなることは良いことだと思う。
	伊藤博文	そのことが良いことか悪いことかは判断できない。アメリカはどう思ったのかな？
G	伊藤博文	嬉しいけど、ちょっと朝鮮の人々が可哀想。
	朝鮮人	良くない。日本だって支配される悔しさを知っているから。また、日本人に逆らってくるから。
	陸奥宗光	日本の領地が増えても嬉しいことではない。
	小村寿太郎	不満を持たれるし、逆転される可能性もあるので止めた方が良い。



	役 割	朝鮮の植民地化について 10月26日
H	小村寿太郎	欠席
	伊藤博文	不平等条約を改正できたならそれで良いと思う。植民地までは必要ない。
	朝鮮人	支配されなくて良かったが、外国が怒って戦争を仕掛けて来ないか心配である。
	陸奥宗光	日本は、植民地に住む人に嫌われる。不平等条約の改正は素晴らしかったとは思いますが。悪いイメージあり。

反面、自主的な発言が日に日に減少しているというマイナス面もある。先行学習によって豊富な知識をもつ男子が、互いに牽制する雰囲気をつくっていることや、そういう男子に圧倒されている女子が発言を控えてしまっていることなどが、原因だと考える。

そこで、少人数で学んで、自分自身がグループの構成員に対して責任を負うような劇づくりの学習場面を設定することにした。このことによって、一人一人が、他者と関わりながら、様々な価値観とであり、自分の役割を果たせる（責任ある行動をとる）と考えたからである。

### (3) 観察対象グループ（B班）の学びあいの様子について

以下に示すのは、観察対象グループ（B班）が、台本づくりを始めた時の最初の40分間の会話である。発言の名前は、自分が選んだ役割を示している。ただし、下線が引いてある場合は、その役割として台詞を考えて発言している時を表している。番号は発言の順番を示してある。

このグループの4人は、「市民」（歴史）の学習は、どちらかというと苦手なタイプの子が多く、この4人だけで学習を進められるか少し不安に思えたメンバーである。

#### ア 劇づくり はじめの40分間の会話の実際

- 1 陸奥：まず、だれから言うか決めよう。
- 2 伊藤：伊藤からでいいんじゃない？
- 3 陸奥：前の勉強のとき、行基とかせりふをいったじゃん。
- 4 小村：いつから始める？
- 5 伊藤：内閣のところから。1881年か1889年か。
- 6 朝鮮人：時は、1888年に遡ります。日清戦争前に朝鮮の人々は植民地にされて、…
- 7 伊藤：あらずじ考えてからでいいんじゃない。
- 8 陸奥：今、考えているの！1894年だから。…1885年からでいいんじゃない？
- 9 伊藤：どうして、1885年からなの？
- 10 陸奥：伊藤博文が出てきた。
- 11 伊藤：劇は、日韓併合までで良い。そこで、朝鮮の人が何か言うのが。  
朝鮮の人々が出てくるのは、そこしかない。
- 12 朝鮮人：朝鮮人は、日本のせいで多くの土地を失った。朝鮮の歴史を教わらなかった。民族の誇りを傷つけられた。…という台詞があるといいかな？
- 13 朝鮮人：小村は、満州と朝鮮は一体と考えたから、満州が日本のものになれば、朝鮮も日本のものになると考えたわけ。そしたら、小村は悪いじゃん。
- 14 小村：だれかが、朝鮮を植民地にするのに反対したでしょ？
- 15 伊藤：それは伊藤博文だよ。陸奥ってやばくない？朝鮮の王様を殺す命令をしたんでしょ？
- 16 陸奥：張作霖でしょう。伊藤が命令したの？
- 17 朝鮮人：伊藤じゃないの？
- 18 陸奥：日本の政府でいいんじゃない？
- 19 伊藤：だれかが勝手に朝鮮人を殺して中国人の仕業にしたんだよ。
- 20 陸奥：線路とか壊して。それは戦争を起こすもとなつたんだよ。
- 21 伊藤：柳条湖事件だ。日中戦争だよ。
- 22 朝鮮人：朝鮮人を殺して中国人のせいになれば清のせいになると考えたんでしょ？でも、朝鮮

が日清戦争を起こすかな？

- 23 陸奥：中国と朝鮮は兄弟みたいなもので…
- 24 伊藤：今はそのことを話してるんじゃない。後になって、アメリカやイギリスとの対立になったんでしょ！
- 25 陸奥：日本の政府が鉄道を壊したんだよね？
- 26 伊藤：まず、あらずじを考えよう。何年から始めようか？
- 27 朝鮮人：終わりか？
- 28 伊藤：1910年で良くない？1909年、1910年、どっちだっけ？  
伊藤博文が死ぬまでをやれば良いんだよ。
- 29 小村：1909年です。
- 30 伊藤：お前が（朝鮮人役の子に向かって）、パン（発砲する音）ってやって、自分が死ねばいいんだよ。
- 31 参観していた他の教員：殺すほど恨まれるのはなぜ？
- 32 伊藤：それは、これから考えます。清は、朝鮮マニアみたいなもので、朝鮮は清に支配されていた。でも、日清戦争で、（日本は）清から朝鮮をもらって支配した。
- 33 参観していた他の教員：清と朝鮮は別の国でしょう？
- 34 陸奥：兄弟みたいなものです。中国の皇帝が朝鮮の支配を強めています。
- 35 小村：日露戦争後支配を強めたって書いてある。
- 36 伊藤：伊藤博文が出てきて、ドイツが帰ってきたところから内閣を作りました。外務大臣を小村寿太郎に指名しました。（これは、陸奥宗光の誤りである）
- 37 小村：小村は陸奥に感謝しているでしょう。
- 38 伊藤：伊藤博文が陸奥宗光をどう思っているのか、陸奥宗光が伊藤博文をどう思っているのかということについて、考えを入れるんだよね。
- 39 指導者：どんな場面から始めるの？（他のグループを指導して、Bグループに来たときに、ノートに何も書いていないことに気がつき、かなり驚いて指導を始めた）
- 40 伊藤：伊藤博文がドイツから帰るところから。
- 41 指導者：では、ナレーターがそう言ってください。
- 42 陸奥：1885年だね。先生、これって（日露戦争の資料を指さしながら）満州事変ですか？
- 43 指導者：いいや、満州事変は1931年で、これはポーツマス条約です。30年くらい時代が違うよ。
- 44 朝鮮人：（陸奥役の子に向かって）、ポーツマス講和条約のあとに、日本は満州に権利を得るのよ！
- 43 指導者：（まだ、こだわっている陸奥役の子に向かって、資料集を見せながら）、ポーツマス条約では、ロシアは満鉄の一部を日本に譲ることになったでしょう。アメリカが、満鉄の共同経営を提案したけれど、日本（小村寿太郎）はそれを断った…
- 44 陸奥：それが戦い（満州事変や日中戦争）のもとになったの？
- 45 指導者：今学習しているのは、日清日露戦争で、次の時代につながる場所でしょ。
- 46 陸奥：ううん…（みんなにも説得されて）
- 47 指導者：では、内閣制度を作ったときから始めてみよう。
- 48 伊藤：内閣制度を始めてから、外務大臣を小村寿太郎にした。
- 49 指導者：では、流れは時代順で良いね。流れが決まったら、台詞を入れてごらん。伊藤博文は、何て言えば良いでしょう？
- 50 伊藤（ナレーター兼務）：内閣総理大臣に伊藤を任命します。感謝の気持ちで一杯です。ううんと…しばらくの間…、時代は1885年に遡ります。伊藤は、ドイツからプロシア憲法を見してきました。そこで、伊藤は大日本帝国憲法と内閣制度を作りました。伊藤の台詞…内閣の外務大臣に陸奥宗光を指名する。…4人ともこのナレーションと台詞をノートにメモし始める。  
この授業は、ここでちょうど終了時刻となった。

### イ この時間の子どもたちの発言から感じられる協働する場面

○生活班という学習には必然性のないグループでも、居合わせた4人が知恵を出し合って学習を進めることも必要である。このグループは一斉学習では全く発言をしない子たちの集まりである。

それでも、小村役以外の3人は、少しずつでもお互いの考えを主張しながら台本になるよう務めている。

○発言13, 14は、不確かな事実を確かめようとする行動や意欲として読み取ることができる。

○発言19以降では、陸奥役の子が、日露戦争と日中戦争を混同してしまっている。伊藤役の子が否定する(発言21)が、まだ納得していない。朝鮮人役の子は、「でも、朝鮮が日清戦争を起こすかな？」(発言22)と、朝鮮人の立場から考えてもおかしいと疑問を投げかけて考えようとしている。

### ウ 本活動を振り返って

本時は、劇の台本づくりの第1時間目(3時間のうち)であった。この時間では、「自分が調べた人物と、友だちが調べた人物の業績や関係を考えて、台本にしよう」とすることを、子どもが意識して取り組むことを願っていた。子どもの記録では、お互いに牽制しているような難しい場面で、スムーズには進んでいない。

しかし、上のイで考察したように、以上のように、協働して学びが生まれる瞬間を感じることができる。やはり、それぞれに立場や役割があることは、ジャンプしなくてはならないような難易度の高い学習に取り組むときには大切な環境の一つと考えられる。

### エ 観察対象グループ(B班)の台本全文

台本は、「(ア)劇づくり はじめの40分間の会話の実際」の50番の会話から始まる。混乱を避けるために、台本の台詞は50番からの通し番号とする。また、このあと、80分の時間を使ってできたのがこの台本である。

50 伊藤(ナレーター兼務):内閣総理大臣に伊藤を任命します。感謝の気持ちで一杯です。

51 ナレーター(伊藤兼務):時代は1885年に遡ります。伊藤は、ドイツからプロシア憲法を見てきました。そこで、伊藤は大日本帝国憲法と内閣制度を作りました。

52 伊藤:内閣の外務大臣に陸奥宗光を指名する。

53 陸奥:ありがとうございます。国のためにがんばります。

54 ナレーター:こうして、内閣の外務大臣に指名された陸奥宗光は、1894年にイギリスとの間に治外法権の廃止を含んだ条約改正に成功しました。が、同じ1894年に日清戦争が起こり、日本は清に勝利をおさめました。

これは下関条約を結ぶ前の伊藤と陸奥の会話です(小村も入る)。

55 伊藤:まず、清が朝鮮を手放すように命じよう。

56 陸奥:それは良い考えだ。これで、朝鮮は日本のものだ。

57 小村:さすがです。尊敬しちゃいます。あとは、朝鮮がどう動くか。

58 ナレーター:それを聞いた朝鮮人は。

59 朝鮮人:ゆるさん。なんてことをしやがるんだ、日本は!!!いつか絶対殺してやる。

60 ナレーター:こうして日本は下関条約を結びました。内容は、清が朝鮮を手放すとことと他に賠償金を支払うなどの要求をしました。清は、それを受け入れました。

61 朝鮮人:なんていうことだ…。清が、清が私たちに裏切った。

62 ナレーター:一方日本では…。

63 伊藤:これで。清は朝鮮を手放したな。

64 陸奥:やりましたね、伊藤さん!!

65 さすがです。でも、このまま、朝鮮をどうしましょう?

他の国がまた、朝鮮をねらってくるかも…。

66 ナレーター:こうして、日本は、清が朝鮮を手放すことに成功しましたが、朝鮮の王はロシアに協力してもらおうと動き出していたのです。そのため、日本の公使が朝鮮の王を殺してしまいました。

- 67 朝鮮の人々：日本が…、日本が王を殺してしまった。許さない。殺す、殺してやる！
- 68 陸奥：ふふふ…これで、朝鮮は助けまい。さあ、これからロシアがどう動くか…。
- 69 小村：もしもロシアが反抗したら、清のように倒せばいいことです。
- 70 伊藤：おお、たまには良いことをいうなあ。
- 71 ナレーター：小村寿太郎の言うとおりに、ロシアは反抗しました。なので、日本は軍を満州に送りました。こうして、日露戦争が起こりました。日本は多くの戦死者を出しましたが勝ちました。日本軍の中には、日英同盟を結んだため、イギリス人が入っていました。こうして、日本とロシアでポーツマス条約を結びました。
- 72 伊藤：じゃあ、まず、権太の一部をもらおうとするか。
- 73 陸奥：そうですね。
- 74 小村：伊藤さん、陸奥さん。日本側の代表として私にいかせてください。
- 75 伊藤：いいだろう。日本側の代表は小村にする。
- 76 小村：いいだろう。それでは行ってきます。
- 77 ナレーター：朝鮮はロシアの敗北にショックを受けました。
- 78 朝鮮人：清も負け、ロシアも負け、もう、どうして良いのか分からない。でも、私たちには、希望がある！独立さえすれば、私たちは平和になれる。日本なんてやっちまえ。
- 79 伊藤：朝鮮は独立運動をしようとしているらしい。こうなったら意地でも止めろ！
- 80 ナレーター：日本は朝鮮の独立運動を止めるために行動を開始しました。そしてある日…。
- 81 朝鮮人：伊藤博文！お前のせいで、私の国はボロボロだ！いまこそ怨みをはらすとき。死ね～、ドーン！
- 82 伊藤：うっ…、なっ…何という…、バカなやつだ。バタッ。
- 83 ナレーター：こうして伊藤博文は亡くなりました。1909年のことでした。朝鮮の独立運動は止まりました。そして、1910年に日本は韓国を併合し朝鮮を植民地にしました。ああ、これで本当に良かったのでしょうか？今、思ってみれば朝鮮を植民地にすることは間違っていたと思います。伊藤博文は韓国を併合するのには反対でした。ですが、伊藤博文が殺されたために、韓国は併合されることになったのです。ああ、なんということでしょうか…。終わります。

#### IV A・Bグループの台本全文から見えてきた成果と課題

##### 1 大切なことは友だちと関わろうとする意欲や態度

一人一人の理解力は不十分であっても、友だちと関わろうとする気持がある子は、劇の台本づくりの過程で、それまでもっていた断片的で不確かな知識は、どんどん更新されていくのである。Bグループでは、陸奥役の子が、日露戦争と満州事変を取り間違えていたが、そのような誤認も話しあいの中で修正されていった。

ただし、B組Bグループの台本にも、歴史的な事実誤認が残されている。例えば、「66ナレーター」の「…そのため、日本の公使が朝鮮の王を殺してしまいました。」は、「王妃」が正しい。

##### 2 学習問題は社会的価値判断力育成型を

課題としては、このBグループのような比較的市民の学習を苦手としている子たちにとって、A組のような通史的取り組み方でも済む学習問題と、修正したタイプの為政者の思惑の違い（価値判断）に着眼させる学習問題と、どちらがよりよいのかという問題にたどり着いた。

結論は、修正型をはじめから提示した方がいいということである。実は、B組では、8グループ中6グループが、修正型の学習問題にそった台本を書くことができたのである。できなかったBグループは理解に時間がかかる子が多かったこと、もう一つのHグループもうまくいかなかった理由は同様であった。このような意欲があっても理解力が十分とはいえない子どもたちへの配慮は、当然何らかの手だてが必要になろう。

ちなみに、A組は台本を書き直す学習を取り入れることによって、8グループ中7グループが修正型の学習問題にそった形で台本を作ることができた。はじめに通史的な内容で劇づくりをしているので、当然の結果ともいえよう。

それならば、はじめからB組のように取り組ませることは問題はないという結論に結びつく。

#### 参考文献

##### 社会科や市民性教育に関わる文献

- ・『66時間で育てる歴史的な見方・考え方』目賀田八郎 編著 東京書籍 1987年
- ・『提案する社会科』小西正雄著 明治図書 1994年
- ・『「戦後民主主義」と教育』小西正雄著 明治図書 1995年
- ・『未来志向の社会科授業づくり』小西正雄編著 東京書籍 1997年
- ・『シティズンシップの教育思想』小玉重夫著 白澤社 2003年

#### 附記

本「研究ノートⅡ」は、今までに、本校の『研究会発表要項』の「市民」部会や「シティズンシップ部会」のページに書いてきたものを纏めたものである。今回も時間が十分にとれず、実践記録にとどまってしまったことは残念である。今後、またの機会につなげたい。

本稿を書く途上で、たくさんの先生方にご助言を賜った。特に、「市民」研究部会、「シティズンシップ部会」の指導助言者である目賀田八郎先生、小玉重夫先生、梶井貢先生、小西正雄先生には、何回も部会で直接ご指導をいただいた。ここに、関わってくださった先生方に、改めて感謝の気持ちを表したい。

(2007. 12. 31)